

# こなん水辺公園ニュース

2010年4月号(通算第5号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

## 自然解説再開しました

12月からお休みしていた自然解説員ですが3月から再開しました。毎週土曜日と日曜日の午前10時から午後2時まで駐在しています。園内をうろろしていますので、気軽に声をかけてください。

## ミヤマホオジロ

3月半ば、曇り空の寒い日、園内を歩いていると、道の上を黄色の小さな物体が移動しているのを発見。何だろうと思っていると、飛び上がって木の枝にとまりました。頭と喉の鮮やかな黄色が目立つこの鳥はミヤマホオジロという小さな鳥でした。日本には冬鳥として飛来する鳥です。この公園のような場所ではあまり見られない鳥ですが、旅の途中だったのでしょうか。



## 野鳥のエサとり

園内を見渡すと芝生でムクドリやツグミがエサをついばんでいる姿がよく見られます。ちょっと視線を上げてみるとミサゴがエサを探している姿も見られます。ミサゴは主に魚を食べる鳥で、園の周囲を流れる大宮川や金腐川上空によくいます。3月には園内の池で魚を取る姿が見られました。池の上空で翼を羽ばたかせ、水面に向かって急降下、水面から飛び上がると足にはしっかりと魚がつかまれています。4月にはカワセミが池のヨシにとまり、何度も水面に飛び込んではエサをとって食べていました。



〔池のヨシにとまっているカワセミ〕

野鳥を観察していると、凄い！と思うような技が時折見られます。面白いです。

## こなん水辺公園で見られる花(4月)

春の花が咲いています。こなん水辺公園は、もともと造成した場所で、水辺のほかに歩道や芝生広場があり、草刈などの管理がされているため、いわゆる雑草はあまり多くありません。一方で、造成地や普段から人の手が入っているところでは外来植物が優占しがちですが、こなん水辺公園も例外ではなく、園内を歩いてみると、セイヨウタンポポ、ミチタネツケバナ、オランダミミナグサ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヒメオドリコソウなど外来植物の群生が圧倒的に目立ちます。



〔歩道沿いに生えているオオイヌノフグリ〕

このような中で、公園奥の田んぼのエリアにいてみると、在来種のツボスミレが淡紫色の花びらに濃紫色の紋が入った小さな花をつけています。「つぼ」とは「庭」の意味で、本来はどこにでもある雑草なのですが、最近はお目に見られなくなりました。湿地を好む植物で

あり、そうした場所が少なくなったこと、田んぼの畦に除草剤を撒くことが多くなったためと思われます。こなん水辺公園の田んぼは農薬を使用していないためか、畦にはツボスミレが群生しています。



〔田んぼの畦のツボスミレ〕

この田んぼエリアの2つの区画に黄色い花の群生が目立ちます。セイヨウカラシナ類の栽培品種のようですが、数年前に播種されたものです。広く合意を得て実施されたものではなく、意図は不明ですが、こなん水辺公園を活性化しようとしたのかもしれませんが、結局、そのまま放置されましたが、強い植物なので翌年からは勝手に生育しています。各地で実施されている菜の花プロジェクトを模倣したものとも思われますが、この場所でおこなう必要はないことで、長期的な見通しもないまま、植生に影響を与えてしまいました。自然再生や生物多様性の保全の点からも問題が残る、安易におこなわれてしまった残念な出来事でした。

